

No.14 2002年7月発行

淀川水系 流域委員会 琵琶湖部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

第14回琵琶湖部会の内容……………P.1

これまで開催された委員会および部会等について……P.10

当日資料の閲覧・入手方法……………P.11

平成14年6月4日(火)
第14回琵琶湖部会(現地視察等)が行われました。



【鷺見集落跡にて】

【ホテルプリオールにて】



第14回琵琶湖部会 委員リスト

2002.6.4現在
(五十音順、敬称略)

	氏名	対象分野	所属等	備考(兼任)
1	井上 良夫	地域の特性に詳しい委員(水辺の遊び)	BSCウォータースポーツセンター校長	-
2	江頭 進治 (部会長代理)	河道変動	立命館大学理工学部 教授	委員会
3	嘉田 由紀子	地域・まちづくり(環境社会学、文化人類学、住民参加論)	京都精華大学 教授 滋賀県立琵琶湖博物館 研究顧問	委員会
4	川那部 浩哉 (部会長)	生態系	京都大学 名誉教授 滋賀県立琵琶湖博物館 館長	委員会
5	川端 善一郎	生態系	京都大学生態学研究センター 教授	-
6	倉田 亨	農林漁業	近畿大学 名誉教授	委員会
7	小林 圭介	植物(植物社会学)	滋賀県立大学 名誉教授、 永源寺町教育委員会 教育長	-
8	宗宮 功	水質(水質工学)	京都大学 名誉教授、 龍谷大学 教授	委員会
9	寺川 庄蔵	地域の特性に詳しい委員(自然・環境問題全般)	びわ湖自然環境ネットワーク 代表	委員会
10	中村 正久	水環境(環境政策、環境システム工学)	滋賀県琵琶湖研究所 所長	委員会
11	西野 麻知子	動物(陸水動物学)	滋賀県琵琶湖研究所 総括研究員	-
12	仁連 孝昭	経済	滋賀県立大学環境科学部 教授	-
13	藤井 絢子	地域の特性に詳しい委員	滋賀県環境生活協同組合 理事長	-
14	松岡 正富	地域の特性に詳しい委員	滋賀県漁業青年部 理事、 朝日漁業協同組合 代表監事	-
15	水山 高久	治山・砂防	京都大学大学院農学研究科 教授	委員会
16	三田村 緒佐武	環境教育(水環境教育、生物地球化学)	滋賀県立大学環境科学部 教授	委員会
17	村上 悟	地域の特性に詳しい委員(鳥類生態、ラムサール条約)	琵琶湖ラムサール研究会 代表	-

注:対象分野欄の()は委員の専門を示しています。

第14回琵琶湖部会の内容

開催日時：平成14年6月4日(火) 9:30～18:00

第14回琵琶湖部会では、丹生ダムの建設が予定されている高時川流域の視察および現地の方との対話等が行われました。当日午前は、ご意見をお伺いする会が行われ、現地の自然に詳しい方や丹生ダムの計画によって住居を移転された元住民の方々からお話を伺いました。

午後は高時川流域の現地視察が行われ、その後夕方には、地元の方等との意見交換と、中間とりまとめに対する河川管理者からの質問への対応や今後の部会の進め方についての議論が行われました。

当日のプログラム

ご意見をお伺いする会
(於：余呉町山村開発センター)

現地視察
(鷺見集落跡
淀川の源の碑、余呉高原スキー場)

地元の方等との意見交換
(於：ホテルプリオール)

委員による意見交換
(於：ホテルプリオール)



ご意見をお伺いする会の概要

12名の委員が出席し、余呉町にてご意見をお伺いする会が開催されました。まず、河川管理者より丹生ダムについて説明が行われ、その後、現地の自然に詳しい方、琵琶湖の水と暮らしに詳しい方、丹生ダム計画によって移転された住民の方々のお話を伺いました。

説明及び質疑応答

河川管理者（水資源開発公団）からの説明

- ・丹生ダム建設事業の目的、水資源開発公団事業実施の手順について説明が行われた。
- ・丹生ダム事業の経緯として、地元との協力関係、生活再建関係、水源地域の整備について説明が行われた。

意見交換

委員：クマタカの営巣地の放棄、工事濁水による漁業への影響等々、ダム計画によって負の影響が生じている。こういったことも、きちりと説明して頂きたい。

水資源開発公団：クマタカについては9月頃に報告したい。また、道路工事による濁水については沈殿池等によって対応している。今後、情報を提供していきたいと思っている。

部会長：これからは、過去のデータ等について、より具体的なものを出して頂きたい。例えば、「濁水がなぜ発生してその時どのような対応したのか」、或いは「仮にあることが発生した場合にどう対応するのか」といった具体的な情報を提供して頂きたい。

委員：ダムと地元とのこれまでの経緯や、地域振興にとってダムが必要だということも理解できるが、ダム以外の方法があるかもしれない。世紀単位で環境を考えていかなければならない今、社会全体で受け入れていくことができるなら、そのためにきちんと議論していかなければならない。

高時川流域の自然についてのお話

- ・高時川源流には、ワシタカやツキノワグマが生息している手つかずの自然が残されており、動植物が健全な状態で生息している数少ない地域となっている。
- ・この自然を残すためには、今のまま、何もしなければ大丈夫だと思う。丹生ダムの湛水地域とは離れているので、ダムの直接の影響はないと考えられるが、ひとつ心配なことは、余呉高原スキー場の工事によって、これが破壊されるかもしれない。

暮らしと水とのかかわりについてのお話

- ・かつて、川の水をすくって飲み、川の水を使って風呂に入っていた。川の水を大事に使っていた昔は、上流の者は下流に住む人のために排水にも気を遣っていた。蛇口をひねれば水が出てくる、お湯が出てくる便利な時代になり、そういった水文化が失われてしまった。
- ・子供たちは「川は危険だから、近寄ってはならない」と言われ、川からどんどん遠ざかっている。これからは「水に親しむ」ということを子供たちに伝えていかなければならない。

丹生ダム計画による移転住民の方々のお話

- ・冬期の生活の厳しさ、度重なる洪水、生業だった木炭の需要の減少、若者の都会への流出等々、非常に厳しい生活を強いられてきた。そこにダム計画が持ち上がり、国の要請に従う形で故郷を捨て移転することを決めた。しかし、やはり「犠牲」になったという気持ちは捨てきれない。
- ・この流域委員会では「ダムは不要」といった論調が強いそうだが、ダム計画によって移転した私たちの気持ちを反映した議論をお願いしたい。



現地視察の概要

12名の琵琶湖部会委員と委員傍聴者4名に加えて、一般の方々も同行して、丹生ダムの建設が予定されている高時川周辺の現地視察が行われました。

現地に実際に足を運ぶことにより、ダム建設を巡る諸問題と地元の方々の想い、自然環境保護の重要性についての理解を深めました。

鷺見集落跡

鷺見集落跡は、丹生ダムの計画によって水没することになっている地域にある。現地では、河川管理者より丹生ダム計画に伴う水没規模等について説明を受けるとともに、ダムサイト周辺に残された豊かな自然や動植物等を観察した。また、元住民の方から当時の暮らしぶりについてお話いただいた。



【元住民の方によるお話】



淀川の源の碑

余呉高原スキー場の駐車場脇には、淀川流域の最北端を意味する「淀川の源の碑」がある。



余呉高原スキー場

山村の開発が周辺の河川や湖沼の自然環境に与える影響について見識を深めるため、現地周辺の濁流の原因になっていると思われる余呉高原スキー場を視察した。スキー場では場内視察の申し入れを行ったものの断られ、外部からの視察となった。



地元の方々等との意見交換の概要

現地視察終了後、余呉町内のホテルに移動し、14名の委員が参加して丹生ダム計画に関する話題を中心に地元の方々等との意見交換が行われました。

説明及び質疑応答

高時川流域の歴史的経緯について

- ・最近の水害も減少しつつあるが、かつて高時川は数多くの水害を経験してきた。多い時には年に2、3回水が溢れ、そのたびに家屋や畑が被害を受けてきた。こういったことが繰り返され、多くの人が町を離れていった。
- ・その一方で、深刻な水不足にも悩まされてきた。かつて、水をめぐって上流部と下流部で「井落とし」と呼ばれる合法的な水げんかが行われてきたが、昭和14年を最後にこの伝統も失われてしまった。

意見交換

委員：かつての洪水や渇水の苦勞を若い人たちはどれだけご存じなのでしょう。また、今もなお洪水の危険性があることを地域や若い人たちはどれだけ実感されているのでしょうか。

意見発表者：残念ながら、そういった関心や危機感は薄れつつあると思います。

委員：琵琶湖の自然環境は100年、1000年単位で推移してきました。しかし、この30年の間に、自然環境がドラスティックに変化してきています。この現状に対して、ダム計画を推進している地元ではどのような議論がなされているのでしょうか。

意見発表者：数多くの議論をしてきました。一例をあげると、地域の婦人の皆さまに無理をお願いして生活排水に関する問題についてご議論して頂きました。私たちとしては、特に農業排水が琵琶湖に大きな負荷をかけていると思っています。

委員：ダムが琵琶湖に与える影響というのは、今のところ、ほとんど何も分かっていません。しかし、ここ10年の北湖の状況を考えると、20年、30年後に後悔しないためにも一度しっかりと調査した方がよいのではないかと思います。



余呉町と丹生ダム計画について

- ・昭和54年、建設省よりダム計画のための調査依頼があって以来、余呉町ではダムについて真剣に議論されてきた。その結果、国によるダム計画が中止になった前例がない以上、ダム計画を契機にして、ダム水没地の住民の生活再建対策と悔いのない町づくりを要請していくという方針を選択した。
- ・丹生ダム計画による水没集落は、豪雪と洪水など過酷な自然条件に加え、生業であった木炭需要の減少によって、非常に厳しい生活を強いられていた。そんな折り、ダム計画が持ち上がり、町からの度重なる説得もあって、故郷を捨て移転することをやむなく受け入れたという経緯がある。
- ・現在、余呉町としては、ダム対策委員会を主体として度重なる検討・討議・説明会を実施し、ダム本来の機能である治水・利水はもとより、自然豊かな水源地に多くの人を訪れるよう、また、上下流の交流を深めるための事業や施設整備を進めてきている。
- ・ダムをはじめとした大型公共事業が逆風の中にあるということは理解している。しかし、世の中が変化したとはいえ、「なぜ、今さらダム中止なのか」といった強い気持ちがある。予備調査から34年、調査受け入れから18年が経過しているが、一日も早いダム完成はダム計画による移転者や町に対する責務なのではないか。

意見交換

委員：「ダムは地域の生活基盤のために必要」というお話だったと思います。そのための具体的なプランがあればお聞かせください。

意見発表者：上下流の交流が一番大事だと思っています。具体的には、ダム完成に合わせて茶わん祭りの館や妙理の里、ウッディパル余呉といった事業を進めてきましたが、肝心のダム完成が遅れていることが大変残念です。

ダム完成後の自然保全・管理についての議論を

- ・ダム建設について上流と下流で意見は対立していたが、「調査受け入れやむを得ず」という方針が決定してからは、丹生ダム対策委員会を中心に上流・下流・中河内部会が一丸となって取り組んできた。現在、厳しい社会・経済情勢の中、思うように予算配分が受けられないと聞いてはいるが、地元としては計画通りの早期ダム完成を願っている。
- ・流域委員会では「ダムは不要」といった論調が強いようだが、これはダム計画によって故郷を明け渡した住民の感情を踏みにじったものである。
- ・丹生ダムでは、平成6年度に丹生ダム周辺環境整備検討委員会が設置され、環境にやさしいダムについて種々検討がなされている。人の手の入らない自然は荒廃していくだけである。ダムが完成した後の自然保全や水質管理について議論することが何よりも必要ではないか。

意見交換

委員：苦渋の選択の末、ダムを受け入れたということは重々承知していますが、この委員会を通じて、地域の方たちの暮らしを知りたいと思っています。環境というのは、暮らしだと思えます。100年後、200年後、この地域がどうやって山や川や田んぼと一緒に暮らしていけるのか、そういったことを考えていかなければならないと思えます。

委員：水没予定地の鷲見地区を見てきましたが、上流部の人々が全く住んでいないところでも水質が悪化しているように感じられた。あの水を貯めて本当に安全なのか、疑問に思った。調査した方がよいのではないか。

意見発表者：最初は、ダム反対の声が大きかったです。しかし、避けることができないものとして、ダムを受け入れざるを得なかった。いまさら「ダムをやめる」と言われても感情的にも納得できない。今となつては、ダムと自然とどう調和させていくのか、余呉町をどう活性化していくのか、それを考えていかなければならない。

委員：この30年で社会も経済情勢も大きく変化した。また、自然環境も悪化の一途をたどっている。水を汚し、琵琶湖を汚すダムに頼った地域でよいのか？ あらためて、本当にダムが必要なのかを見直して、ダム以外の方法はないのか、考えるべきだと思います。

意見発表者：それは机上論ではないか。他に方法がないから、ダムを選択してきたということを理解して頂きたい。

一般傍聴者からの意見

- ・丹生ダム計画については、議論に議論を重ねて結論を導き出してきた。丹生ダムは単なるダムではなく、町づくり、地域づくりの核となっている。
- ・流域委員会では、自然環境に関する議論が中心となっているということだが、余呉町では天然記念物のカモシカやクマ等による被害が増大しているという現実がある。
- ・こういった主旨でこの委員会が開催されているのかは知らないが、地元にとっては大変迷惑な会議である。地元としては一日も早いダム完成と予算増額を願っている。

意見交換

部会長：確かに大変ご迷惑な会議であるかもしれませんが、河川法では、こういった委員会をつくって様々な議論を行うと共に、住民の皆さまからも意見をお聴きする機会を設けなければならぬとなっています。この流域委員会は、法律に基づいて設置されていますので、その点はご理解頂きたいと思えます。

委員による意見交換の概要

引き続き、委員による意見交換が行われました。当日の現地視察と住民の方等との意見交換についての感想を話し合うとともに、中間とりまとめに対する河川管理者からの質問への対応等、今後の部会の進め方について議論が行われました。

- ・河川管理者からの質問に対応するために、6月17日(月) 13:30～16:30に部会を開催する。次回の部会では、質問に対する様々な意見を出し合って、琵琶湖部会として認識を共有していくことが重要である。
- ・委員は河川管理者からの質問のうち自分が担当すべきと思われる箇所について回答案を提出する。
- ・今回の現地視察は不本意だった。水没するダムサイトから鷺見地区や道路工事現場も見ておく必要があったと思う。また、濁水の原因となっている余呉高原スキー場もあらためて視察する必要があるのではないか。その際には、地質的な問題について意見を頂くために専門家を呼んではどうか。
- ・現地を視察する以前に、まず、ダムについて理解を深めるためにも、丹生ダムがどのようなダムで今後どういった管理がされていくのか、どのような水位操作を予定しているのか、今日紹介して頂いた地域再建のプランの他にどんなオルタナティブがあるのか、といった具体的な情報を提供して頂きたい。
- ・もし、琵琶湖サイドから見たダムの影響が徹底的に議論されないままダム計画が推進しているなら、きちっと調査しなければならないと強く感じた。
- ・ダム計画がここまで進んでしまっている以上、最も大事なことは地元の声であり、地元がどんな地域ビジョンをつくっていくかということではないか。そのためにも、流域委員会として、個々の地域の話をお聴かせしてもらい機会をつくらなければならない。
- ・ダムの存在によって、上流と下流の連続性が保たれ、自然環境が良い状態で維持されている例は、日本では数例しかない。丹生ダムで具体的にどうすればそういった稀有な例を実現できるのか、地元のご意見もお聴きしたいし、逆に委員会から何か提案ができるかも知れない。難しいとは思いますが、もし可能であれば今後そういった機会を持っていきたい。
- ・ダムが完成すれば人がやって来るという幻想があるが、おそらくそれは無理だろう。本当にどういったオルタナティブがあるか、具体的に提案していかなければならない。



【丹生ダム建設予定地現地視察】

説明資料一覧

配布資料

資料名		資料請求 No
議事次第		B14-A
資料 1	琵琶湖部会中間とりまとめに対する河川管理者からの質問020524	B14-B
資料 2	河川管理者からの質問に対する各委員からの回答案	B14-C
資料 3	6月～12月の会議日程について	B14-D
参考資料 1	第13回琵琶湖部会(2002.5.12開催)結果概要(暫定版)	B14-E
参考資料 2	第11回委員会(2002.5.15開催)結果報告	B14-F
資料番号なし	情報共有のための資料：寺田部会長からの提供資料「河川行政の転換を求める決議」	B14-G
資料番号なし	委員会中間とりまとめに対する河川管理者からの質問020515	B14-H
資料番号なし	委員会中間とりまとめ(確定版020509)に関する委員と河川管理者との意見交換	B14-I

注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP.11の「当日資料の閲覧・入手方法」をご覧ください。

これまで開催された委員会および部会等について

第14回琵琶湖部会(平成14年6月4日)までに、以下の会議が開催されています。

委 員 会	第1回	平成13年2月1日(木)	第6回	平成13年11月29日(木)	第11回	平成14年5月15日(月)
	第2回	平成13年4月12日(木)	第7回	平成14年2月1日(金)		
	第3回	平成13年6月18日(月)	第8回	平成14年2月21日(木)		
	第4回	平成13年7月24日(火)	第9回	平成14年3月30日(土)		
	第5回	平成13年9月21日(金)	第10回	平成14年4月26日(金)		
琵 琶 湖 部 会	第1回	平成13年5月11日(金)	第6回	平成13年11月1日(木)	第11回	平成14年3月13日(水)
	第2回	平成13年6月8日(金) (現地視察)	第7回	平成13年11月20日(火) (現地視察)	第12回	平成14年4月7日(日)
	第3回	平成13年6月25日(月) (現地視察)	第8回	平成13年12月21日(金) 「意見聴取の試行のための会」	第13回	平成14年5月12日(日)
	第4回	平成13年8月22日(水)	第9回	平成14年1月24日(木)		
	第5回	平成13年10月12日(金)	第10回	平成14年2月19日(火) (意見聴取の会含む)		
淀 川 部 会	第1回	平成13年5月9日(水)	第6回	平成13年8月19日(日) (現地視察)	第12回	平成14年2月5日(火)
	第2回	平成13年6月2日(土) (現地視察)	第7回	平成13年9月10日(月)	第13回	平成14年3月14日(木)
	第3回	平成13年7月6日(金)	第8回	平成13年10月31日(水)	第14回	平成14年4月5日(金)
	第4回	平成13年8月9日(木) (現地視察)	第9回	平成13年11月26日(月)	第15回	平成14年5月27日(月)
	第5回	平成13年8月11日(土) (現地視察)	第10回	平成13年12月17日(月)		
猪 名 川 部 会	第1回	平成13年5月23日(水)	第5回	平成13年10月9日(火)	第9回	平成14年2月15日(金)
	第2回	平成13年6月7日(木) (現地視察)	第6回	平成13年12月18日(火)	第10回	平成14年3月4日(月)
	第3回	平成13年6月21日(木) (現地視察)	第7回	平成14年1月18日(金)		
	第4回	平成13年8月7日(火)	第8回	平成14年1月27日(日) (意見聴取の会含む)		
そ の 他	設立会	平成13年2月1日(木)	第1回 合同勉強会	平成14年4月11日(木)		
	発足会	平成13年2月1日(木)				
	第1回 合同懇談会	平成13年2月1日(木)				

当日資料の閲覧・入手方法

以下の方法で資料の全文を閲覧、または入手することができます。

ただし、以下の点にご注意下さい。

- ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。
- ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

ホームページ

会議で使用した資料は、ホームページで公開しております。アドレスは以下の通りです。

<http://www.yodoriver.org>



郵送

郵送による資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。(希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。)

ご希望の方は、別紙の「FAX送信票」にご記入のうえ、FAXまたは郵送で庶務までお申し込みください。

閲覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

別紙

淀川水系流域委員会
ご意見用 F A X 送信票

FAX:06-6341-5984

淀川水系流域委員会 庶務宛
((株)三菱総合研究所 関西研究センター 桐山、森永、北林)

1. 淀川水系流域委員会へのご意見をご記入ください。

寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。

ご意見を公表する場合には、団体・会社名(または居住地)とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。

2. 下記にご記入下さい。

ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表および希望された方への案内状等の送付のみに使用させていただきます。

団体・会社名 ()

ご住所 (〒)

TEL ()

E-Mail ()

お名前 ()

3. 淀川流域委員会では、一般の方を対象としたイベントを度々行っております。

案内状等の送付を希望されますか？

希望する 希望しない

別紙

淀川水系流域委員会傍聴申込
および資料請求用 F A X 送信票

FAX:06-6341-5984

淀川水系流域委員会 庶務宛
((株)三菱総合研究所 関西研究センター 桐山、森永、北林)

1. 委員会または部会への傍聴を希望される方は、下記に希望する会議の名称と開催日をご記入下さい。
会議開催の4日前までに傍聴を受け付けた場合は「受付のお知らせ」ハガキをお送りします。
会議のお知らせは、「会議開催のお知らせ」のチラシ、ホームページ等を参照下さい。

開催日 例) 月 日	会議名 例) 第 回淀川部会		

2. 委員会、部会等で提出された資料の郵送を希望される方は、各会議の説明資料一覧をニュースレター、ホームページ等で参照いただき、下記に送付を希望する資料の提出された会議名称、資料請求 Noと資料名、必要な部数をご記入下さい。

会議名称 例) 第6回淀川部会	資料請求 No 例) Y05-E	資料名 例) 資料3-2 現状説明資料(淀川水系の京都府下7河川の漁業について)	部数 例) 1

3. 下記にご記入下さい。必ず ~ 全てにご記入下さい。ご記入いただいた個人情報については、希望された方への案内状等の送付のみに使用させていただきます。

団体・会社名 ()

ご住所 (〒)

TEL ()

E-mail ()

お名前(複数名での傍聴を申し込まれる場合には、全ての方のお名前をお書き下さい。)

4. 淀川流域委員会では、一般の方を対象としたイベントを度々行っております。

案内状等の送付を希望されますか？

希望する 希望しない

淀川水系流域委員会 琵琶湖部会ニュース No.14

2002年7月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

株式会社 三菱総合研究所 関西研究センター

.....
研究員：新田、柴崎、桐畑

事務担当：桐山、森永、北林

〒530-0003 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル7F)

TEL:(06)6341-5983 FAX:(06)6341-5984

E mail:k-kim@mri.co.jp

流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局 / 淀川工事事務所 / 琵琶湖工事事務所 / 大戸川ダム工事事務所 / 淀川ダム統管理事務所 / 猪名川工事事務所 / 猪名川総合開発工事事務所 / 木津川上流工事事務所 / 水資源開発公団 関西支社 / 滋賀県 土木交通部河港課 / 京都府 土木建築部河川課 / 大阪府 土木部河川室 / 兵庫県 土木部河川課 / 奈良県 土木部河川課 / 三重県 伊賀県民局 等

* ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。